

コーチングのスキルと活用Ⅲ

～不登校解決のためのリソースを探す～

別府大学

教授 佐藤 敬子



独立行政法人教職員支援機構

目次

1. 不登校とは

- (1) 不登校の現状
- (2) 問題行動としてのとらえ方
- (3) 「原因」と「きっかけ」と「要因」を区別する

2. 不登校解決の目標は社会的自立

- (1) ゴールを共有する
- (2) 不登校の要因を探するためのプラス思考
- (3) 本人にプラスの要因が揃っていたか

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

- (1) GRROWモデルとは
- (2) 質問力でリソースを創出する

1. 不登校とは

1. 不登校とは

「不登校児童生徒」とは「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」

不登校の現状に対する認識（文部科学省）

1. 不登校とは

(1) 不登校の現状

不登校生徒数(平成30年度)			
学校	生徒数	不登校生徒数割合	前年比
小学校	6,451,187人	44,841人	28.0%
		0.70%	
中学校	3,279,186人	119,687人	9.8%
		3.60%	
高校	3,242,065人	52,723人	6.2%
		1.60%	

文部科学省調査より

1. 不登校とは

(2) 「問題行動」としてのとらえ方



表出する様々な
問題行動

1. 不登校とは

(2) 「問題行動」としてのとらえ方

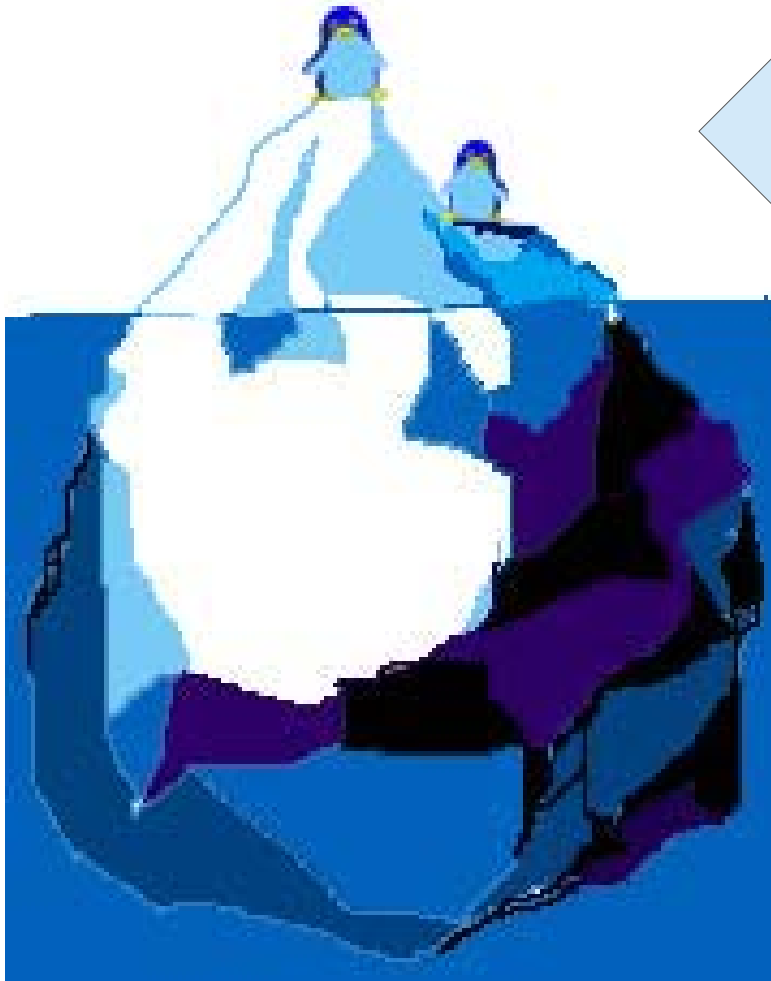


- けんか・暴力・いじめ
- 怠学・不登校・非行
- ひきこもり・自傷

1. 不登校とは

(2) 「問題行動」としてのとらえ方

- ・けんか・暴力・いじめ
- ・怠学・不登校・非行
- ・ひきこもり・自傷



1. 不登校とは

(2) 「問題行動」としてのとらえ方

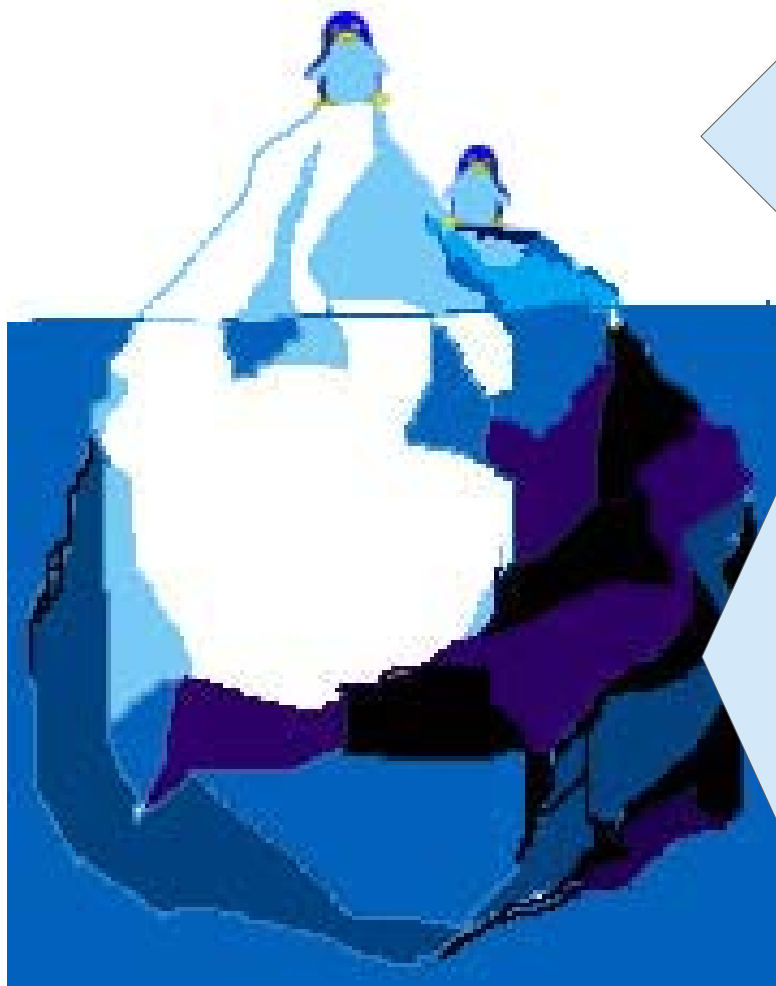
- ・けんか・暴力・いじめ
- ・怠学・不登校・非行
- ・ひきこもり・自傷

背景



1. 不登校とは

(2) 「問題行動」としてのとらえ方



- けんか・暴力・いじめ
- 怠学・不登校・非行
- ひきこもり・自傷

- 友人関係の悩み
- 家族の悩み
- 虐待・家庭の不和
- 心の問題
- 発達の問題
- 学習の悩み
- 身体の悩み

1. 不登校とは

(3) 「原因」と「きっかけ」と「要因」

- 「原因」はわからない
- 「きっかけ」は原因ではない
- 「要因」を分析し、問題解決の手立てを探す



わかっていくこと

2. 不登校解決の目標は社会的自立

2. 不登校解決の目標は社会的自立

(1) ゴールを共有する

「教育機会確保法」

2017年3月に策定された同法の基本指針では、同法とその付帯決議を根拠に「**学校復帰のみ**」にこだわらない**新しい不登校対応が必要**であることが明示された。

不登校解決のゴール



子どもの社会的自立

2. 不登校解決の目標は社会的自立

(2) 不登校の要因を探するためのプラス思考

「なぜ、あなたは学校に行けていたのですか？」

- ①学校は行くものだと思っていた
- ②兄弟もみんな一緒に行っていた
- ③「行かない」という選択肢はうちにはなかった
- ④親が笑顔で見送ってくれた
- ⑤家族みんな仲よしだった
- ⑥学校は楽しいことがある場所だったから
- ⑦先生の授業が楽しいから
- ⑧部活が楽しみだったから
- ⑨泣きつける友だちがいたから
- ⑩勉強して、行きたい高校があったから
- ⑪将来、やりたいことがあったから

2. 不登校解決の目標は社会的自立

(2) 不登校の要因を探するためのプラス思考

- ① 学校は行くものだと思っていた…規範意識の確立
- ② 兄弟もみんな一緒に行っていた…身近なモデル
- ③ 「行かない」という選択肢はうちにはなかった
…規範意識の確立
- ④ 親が笑顔で見送ってくれた…心のエネルギー
- ⑤ 家族みんな仲よしだった…心のエネルギー
- ⑥ 学校は楽しいことがある場所だった…プラスの学校体験
- ⑦ 先生の授業が楽しいから…プラスの学校体験
- ⑧ 部活が楽しみだったから…プラスの学校体験
- ⑨ 泣きつける友だちがいたから…プラスの学校体験
- ⑩ 勉強して、行きたい高校があったから…キャリア意識
- ⑪ 将来、やりたいことがあったから…キャリア意識

2. 不登校解決の目標は社会的自立

(3) 本人にプラスの要因が揃っていたか

- ①規範意識の確立
- ②身近なモデル
- ③心のエネルギー
- ④プラスの学校体験
- ⑤キャリア意識(進路指導)

これらを検証しながらGRROWモデルで考える

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(1) GRROWモデルとは

(Sir John Whitmore 氏が開発したコーチングモデルの原型)

Goal …目標設定(目標・結果・期限など)

Reality …現状の把握(現在地・問題点など)

Resource …目標達成に使える資源(人・物・時間など)

Option …選択肢の創造(無限の可能性)

Will …目標達成の意思(約束・行動に移す)

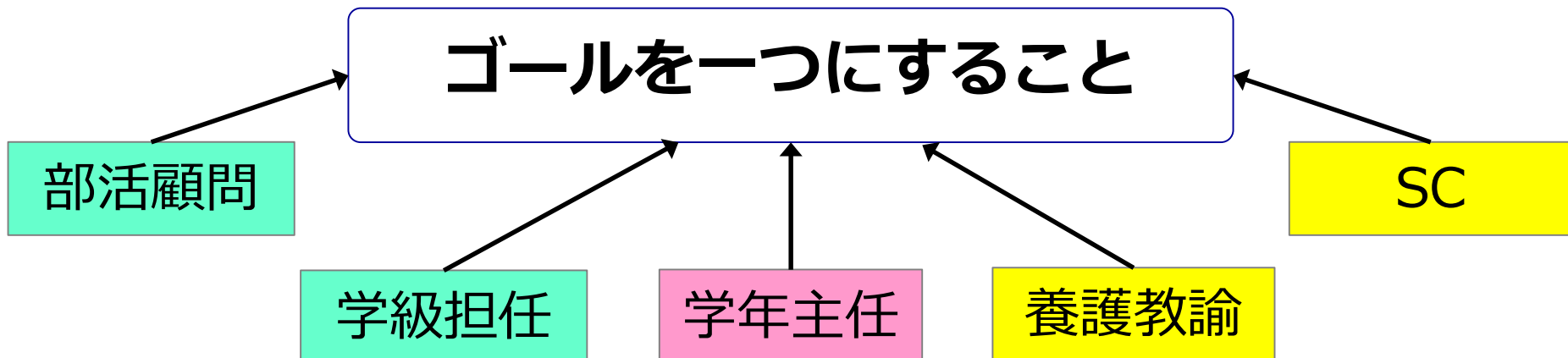
3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

G…目標 (Goal) の明確化 = 最終的にどうなって欲しいか

立場・方法・経験・年齢…は違っても
(対等なパートナーとして)



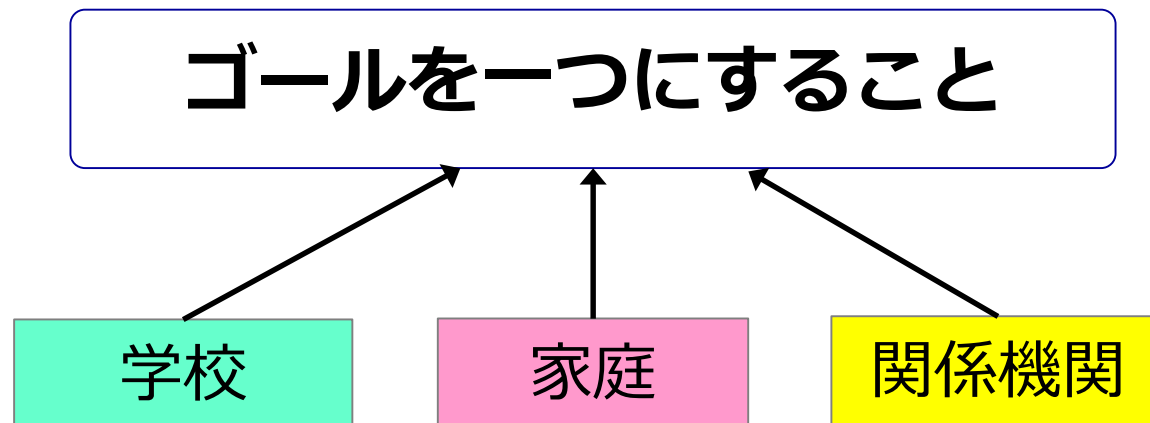
3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

G…目標 (Goal) の明確化 = 最終的にどうなって欲しいか

立場・方法・経験・年齢…は違っても
(対等なパートナーとして)



3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

R…現状把握 (**Reality**) = 今、どんな状況なのか

※質問力を使ってみましょう

- ①いつ頃から、学校に来なくなりましたか
- ②何かきっかけとなるエピソードはありますか
- ③それまでの遅刻や、早退などはどうでしょう
- ④どんな授業の時に出席していますか
- ⑤学校の外での交友関係は把握していますか
- ⑥最近の学習成績はどうですか
- ⑦授業中の様子はどうでしょう
- ⑧家庭の状況で変化したことはありますか
- ⑨友人関係で変化したことはありますか
- ⑩進路指導はどのような状況ですか

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

R…選択肢や資源の発見 (Resource) = 使える人・もの・時間

※質問力を使ってみましょう

- ①好きな教科はなんですか
- ②今のA子をいちばん理解しているのは誰ですか
- ③どんなことに興味を持っていますか
- ④協力してくれる関係機関をどのくらい知っていますか
- ⑤将来のことを話したことはありますか
- ⑥同じような事例を持っている先生はいますか
- ⑦ゆっくり話をするための時間はいつが良いでしょう
- ⑧A子が良く話題にすること(もの)は何ですか
- ⑨部活動の仲間で仲の良い生徒はいますか
- ⑩A子の強み(長所)は何ですか

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

○…視点を変えた選択肢の創造 (Option) = 「もっと他には？」

※質問力を使ってみましょう

- ①もっと、他の方法がありますか
- ②何も制限がなかったら何をしますか
- ③あなたがA子ならどうしてほしいですか
- ④今、ひとり20個アイデアをだしてください
- ⑤A子が毎日、楽しく学校に来ているとしたら、それはどんな状況でしょうか
- ⑥今日であなたがこの学校からいなくなるとしたら何をしてあげたいですか

3. 「GRROWモデル」で解決の手立てを見つける

(2) 質問力でリソースを創出する

(例題) 「中学2年生のA子が最近、不登校傾向にある」

W…目標達成の意思・約束 (Will) = 「いつからする？」

※質問力を使ってみましょう

- ①では、何をしますか
- ②優先順位はどうしますか
- ③明日からできることは何ですか
- ④いつ、だれが、どのようにしますか
- ⑤できそうですか

短期的な目標を繰り返して最終ゴールに向かう

おわりに

GRROWモデルを対処として用いるだけでなく

「不登校にならないための魅力ある学級づくり」のために

- ①「心の居場所」となる学級
- ②学ぶ意欲を育む指導
- ④特別活動を充実する
- ⑤基礎学力の定着に向けた教科指導
- ⑥安心して通うことができる学校

など開発的・予防的生徒指導としてGoalをセッティングする

コーチングのスキルと活用Ⅲ

～不登校解決のためのリソースを探す～

別府大学

教授 佐藤 敬子



独立行政法人教職員支援機構